

『馬鹿』 作：ポチ子

『馬鹿』 作：ポチ子

馬鹿にされたんじゃないか。

いちいち考えてしまう。

失敗をした時、

上手く言葉が出てこなかった時、

簡単なことも出来なかった時。

目の前にいるこの人が、

今、私の姿を見て、

馬鹿だと思ったんじゃないか、

心の中で嘲笑っているんじゃないか、

私のいないところで悪口を言ってるんじゃないか。

そう思うと恥かしくて、

どこかに隠れてしまいたくなる。

考えないようにしても、どうしても頭から離れない。

少し離れた場所で聞こえる笑い声が、

私に向けられたものだと思えて仕方がない。

視線が、声が、怖くてたまらない。

耳を塞ぎたい。

目も瞑ってしまいたい。

誰もいない場所で、一人で居たい。

それが出来れば、どんなに楽だろうか。

いくら望もうと、

結局、私にはそれを叶える勇気がない。

明日も同じように、

こんな事ばかり気にして、

ただうつむいて、

一日が早く終わるように願うのだ。